



桐蔭キャリア通信 第4号

Tojin Career News



和歌山県立桐蔭中学校・桐蔭高等学校 平成26年7月10日発行

キャリア教育 ちょこっと研修 その21 『キャリア教育って?』

<キャリア教育の定義>

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

『キャリア発達に関わる諸能力の育成に関する調査研究報告書』 平成23年3月文部科学省
国立教育政策研究所 生徒指導研究センター p25

<キャリア発達とは>

社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を『キャリア発達』という。

(中央教育審議会『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育のあり方について(答申)』
(平成23年1月31日))

<キャリアのとらえ方>

人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きている。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、繋がっていくものである。また、このような役割の中には、所属する集団や組織から与えられたものや日常生活の中で特に意識せず習慣的に行っているものがあるが、人はこれらを含めた様々な役割の関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を積み重ねながら取り組んでいる。

人は、このような自分の役割を果たして活動すること、つまり『働くこと』を通して人や社会に関わることになり、その関わり方の違いが『自分らしい生き方』となっていくものである。

このように、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していく連なりや積み重ねが、『キャリア』の意味するところである。このキャリアは、ある年齢に達すると自然に獲得されるものではなく、子ども・若者の発達の段階や発達課題の達成と深く関わりながら段階を追って発達していくものである。また、その発達を促すには、外部からの組織的・体系的な働きかけが不可欠であり、学校教育では、社会人・職業人として自立していくために必要な基盤となる能力や態度を育成することを通じて、一人一人の発達を促していくことが必要である。

『キャリア発達に関わる諸能力の育成に関する調査研究報告書』 平成23年3月文部科学省
国立教育政策研究所 生徒指導研究センター p26

そういえば鳴田は小学校、中学校、高等学校、大学時代を振り返ってみれば、ごく普通の学生でした。教師としてスタートした湯浅中学校時代を振り返っても、大した力もない平凡な教師でした。そんな自分が向陽中学校に異動したわけですが、そこからいろいろな仕事を経験し、向陽での4年目と最後の年は学年主任もしました。桐蔭中学校では学年主任の仕事はあたりまえで、その他にも学校全体の運営に関わる仕事もしてきました。

このように自分にかかる責任が次第に大きくなり、その都度その役割を一生懸命果たす(働く)中で、教師としての力をつけ、自信をもつようになり、自分の成長ぶりに非常に驚いてい

るところです。また今の仕事は大変ですがやりがいも感じていますし、もっと色々なことに挑戦していきたいと思っています。校長先生の言葉を借りれば、「こういう教育をしたい、このような生徒を育てたい」という『夢』がありますし、そのために「少々しんどくても、このことには力を入れよう。頑張ろう。」と思える『志』があります。キャリア教育が目指すのは、できればすべての生徒に、それが無理でもできるだけ多くの生徒に、このような気持ちを持たせ、どんどん自分を成長させたい(自分のキャリア発達を促す)と感じさせ、自ら色々なことに挑戦していこうとする生徒を育てることではないのでしょうか？

そう考えれば、キャリア教育を充実させるための様々なプログラムを用意することも大切ですが、毎日の委員・係活動などの、普通の学校生活のいろいろな場面で、生徒に役割を与え、それを頑張ることの達成感を感じさせられるよう、われわれ教師が頑張っていくことが大切な気がします。

(文責 嶋田)